

人生は旅

2021年11月19日

太田隆次

まさに「人生は旅」です

高津高校で、熊澤猪之助先生の漢文の授業で、李白の有名な詩の「光陰は百代の過客である」の意味は「人生は旅である」と、例の「蕃山」調でのたまわったことにいたく感銘したことを思い出します。 原文と現代語訳をご参考までに：

春夜宴桃李園序 李白

夫天地者萬物之逆旅	「夫れ天地は萬物の逆旅（げきりよ）にして」
光陰者百代之過客	「光陰は百代（はくたい）の過客（かかく）なり」
而浮生若夢	「而して浮生は夢の若し」
	（逆旅・・・げきりよ 旅人を泊める旅館。）
	（光陰・・・歲月、時間）
	（百代・・・永遠の月日）
	（過客・・・旅人）
	（浮生・・・はかない人生）

天地はあらゆるものを迎え入れる旅の宿のようなものである
時の流れは、永遠の旅人のようなものである
しかし人生ははかなく、夢のように過ぎ去っていく。

尚、松尾芭蕉は「奥の細道」の冒頭にこの李白の詩を借りています。

「月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり」

(過ぎ去ってはやってくる年もまた旅人だ)

2枚の写真に見る私の人生の点と線

私はこの「人生＝旅」論でいけば、この世に生を受けて以来、紆余曲折を経て今日現在まで落伍せず87年になんなんとする「人生の旅」のラストランを、松本清張流に言えば「点と線」を結んで、見えぬゴールに向けてよたよた疾走中という所でしょうか。

全く偶然ですがこの原稿を書いているこの時刻に、68年後まで見られないという「部分月食」ショーが進行中です。何だか象徴的です。

二枚の写真は、私のいわば「点と線」で、

我が人生の始まりに近い2歳の時の満洲での父に抱かれている私と4歳の兄との写真と、
息子（孫と共に地域診療に従事）に連れられて旅行した日光街道の杉並木での息子とのツーショットです。

